

第60回通常総代会



知多北部地区 6045記念事業 多世代だんらん祭り

2022年6月26日(日)
南医療生活協同組合

第1号議案 はじめに（情勢）

P1 南医療生協の 新型コロナウイルス感染症対応について

2019年12月に中国河北省武漢市を中心に発生した新型コロナウイルス感染症の発生から、6月で約2年半が経過しました。

南医療生協では、病院、診療所を中心に定例の発熱外来を開設し、2022年3月現在延べ8,913人の診療を行い、ワクチン接種では延べ30,846人の接種を実施しました。一定のワクチン接種の効果で重症化率は下がっている傾向はありますが、南医療生協としては、総力をあげた対応を継続します。

P1 コロナ禍でも安全を確保して班会、 支部活動を工夫してすすめてみましょう。

新型コロナウイルスがひろがった2年半の間に、ひきこもりがちな生活を送っている高齢者の間で、体力低下や認知症発見の遅れが目立ちはじめています。重症化すれば本人や家族にとっても負担が大きいものになっています。

班会やおたがいさまの家などに誘って、体操やウォーキングなどの取り組みを感染対策をとりながら適切に継続していくことが大切なのではないでしょうか。

P1 ロシア軍によるウクライナ侵攻について

2022年2月24日、独立国で国連にも加盟するウクライナへ、ロシア軍が突如武力侵攻して世界中を驚愕させました。

南医療生協は3月に「健康の友」で理事長談話を掲載し「ロシア軍は直ちに侵略行為をやめ、自国に撤退すること」を求めました。また医療生協のナショナルセンターである日本医療福祉生活協同組合連合会と連帯して、ユニセフ基金へウクライナの子どもたちへの支援募金に取り組むことを理事会で確認しました。

ヤングケアラーについて

家族の介護や世話をする18歳未満の子ども「ヤングケアラー」については、愛知県が2021年度に行った調査結果が衝撃的です。『公立学校の児童生徒を対象にした調査では、小学校五年生の六人に一人、中学校二年生の九人に一人、高校二年生の十四人に一人が、「世話をする家族がいる」と答えた。』

こうした暮らしの困りごと、班や支部などに持ち寄って、話し合い、理解を深め合い、少しでも改善の糸口を見い出していくことも、協同組合に求められているテーマの一つではないでしょうか。やれるところから、すこしずつ関わっていきたいと考えます。

第1号議案

2021年度

事業と運動のまとめ

新型コロナウイルス感染症対応



名南ワクチン接種支援 かなめ病院にて



おたがいさまの家「いっぷく」利用者さんのワクチン予約

南医療生協では、南生協病院、かなめ病院、診療所群での発熱外来の設置、介護施設を含めた陽性者対応など、全職種、全職員をあげて新型コロナウイルス感染症への対応にとりくみました。

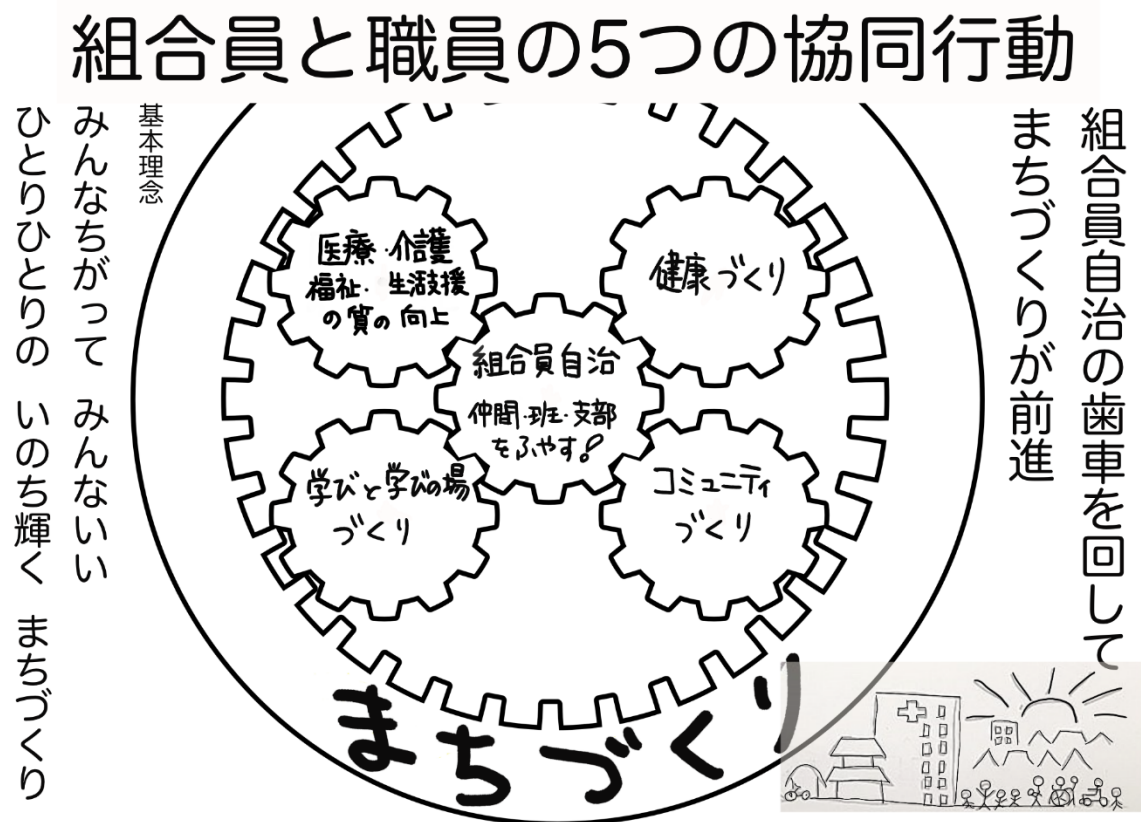
また、名南ブロックにおいて寝たきりの人や認知症、難病、重い障害を抱えている人などを優先して接種する話し合いが行われて、行政や町内会役員と南医療生協の支部・班、かなめ病院職員が協力しワクチン接種困難者の支援を行いました。

2021年度

4つの重点方針（チャレンジ）

ふりかえり

P4 チャレンジ1 「組合員と職員の5つの協同行動」 で組合員自治の歯車を回して、まちづくりをすすめる



「組合員と職員の5つの協同行動」とは、「中心となる協同組合の自治の歯車」を回して、「ひとり一人の健康づくり」「地域のコミュニティづくり」「協同組合などの学びと学びの場づくり」「協同の力で医療・介護・福祉・生活支援の質の向上」を目指す運動のことです。昨年実績よりおおむね前進しましたが、コロナ以前に回復するには至りませんでした。

P5 市バスの申し入れ



2020年度～2021年度にかけて、名古屋市交通局に対し、市民の強い要望である南区要町から南大高駅を結ぶ市バスを走らせてほしいと申し入れを行ってきました。関係する4学区の区政協力委員長の協力もあり、22年4月2日から要町～南大高駅～有松町口無池路線が開通しました。開通したことにより、南生協病院やフィットネスクラブwish、えきまえ歯科などへ通いやすくなったとの声も寄せられています。

P5 健診・人間ドックの取り組み



健診・人間ドックなどの健診事業を職員・組合員が一体とな
ってすすめ、人間ドック受診者は8,165人と過去最大になり
ました。

P5 暮らしのドック健診



地域と職場で「お困りごとはありませんか？」の声をかけていく「暮らしのドック健診」の取り組みは、コロナ禍においても前進しました。南生協病院で各病棟看護師が退院患者の80%以上に声かけを行った取り組みは特筆されます。

P5 そのうち学校



コロナ禍においても前進した取り組みの一つとして、組合員と職員で学びあう「そのうち学校」の活動があります。2021年度には「協同の医療・介護コース」が新設され、そのうち学校全体の受講生は300人を超えました。

P6 チャレンジ2 南医療生協60周年・南生協 病院45周年記念事業（略称「60・45記念事業」）で 、新たな協同の医療、介護、生活支援を発信する



南医療生協の5年間の活動のまとめを記念誌などで記録し発行しました。当面、中長期的に南医療生協がめざしたい医療、介護、福祉、生活支援のあり方、すなわち目指すべき「総合的な地域医療」のあり方を整理しました。記念シンポジウムでは日本の在宅医療のトップランナーである佐々木淳医師を東京からお招きし、地域医療のあり方を深めました。

10万人組合員達成の取り組み



知多半島南ブロック 花と食のマルシェ

2021年度に「10万人組合員」達成を目指して取り組みましたが、達成に至りませんでした。103支部ある中で、事業所のない知多半島の半田中支部では102人、美浜・南知多支部では66人、西三河の知立支部では52人の仲間ふやしが行われました。

P6 「おたがいさまの家」づくり



日常的にささえあい、たすけあいの場となる「おたがいさまの家」は2021年4月に知立支部で「NPOおたがいさまの家あいあい」、2021年9月に大高西ブロックで「NPOおたがいさまの家ほっと」が誕生して、おたがいさまの家は合計7カ所になりました。

P6 おたがいさまシートと二人三脚作戦



名南ブロック 外国人訪問

くらしの困りごとを発信する「おたがいさまシート」は、合計で186件あり、地域と職員で対応しました。また、職員と地域の組合員が「二人三脚作戦」を組んで、定例で地域訪問をする活動が定着しました。気になる患者さんの訪問も行い、抱えている問題を地域へつなぐことができました。

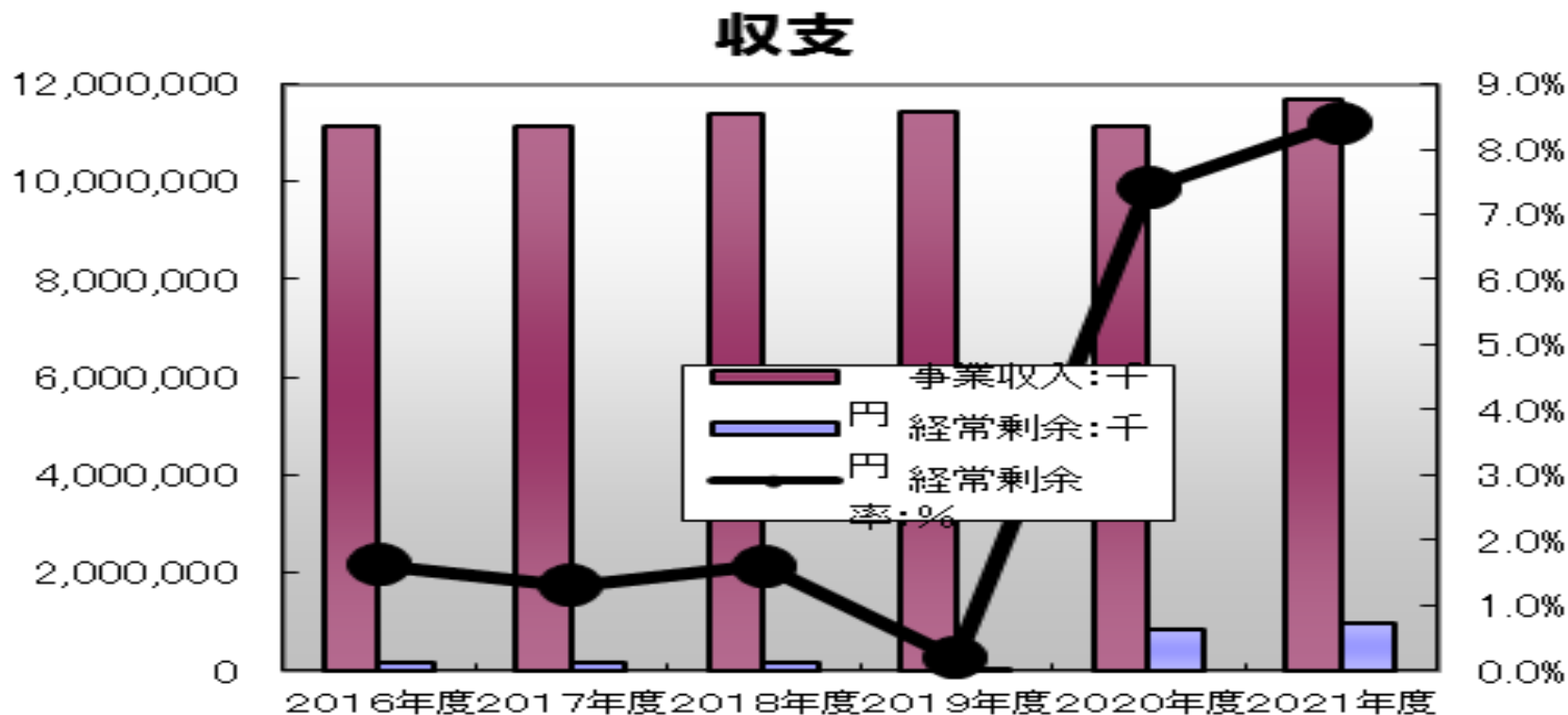
P7 「みな1000運動 (みんなで1000人紹介運動)」



「みな1000運動（みんなで1000人紹介運動）」は45件の紹介があり、11人が就職しました。就職率は24.4%でした

P7 チャレンジ3

健全経営と持続可能な事業運営



2021年度は多くの職場、職員、組合員の経営改善対策を受けて改善をすすめました。国、自治体からの新型コロナウイルス感染症対応補助金を含めれば、経常剰余金は9億8千万円、経常剰余率8.4%でした。補助金を除いた自力の経常剰余金は6億1千万円、経常剰余率5.3%でした。自力で経常剰余率5%を目指す課題は、医科、歯科、介護などが健闘し達成することができました。特に歯科グループでは、2020年度は2診療所で赤字でしたが、2021年度は3診療所とも黒字に改善しました。

P7 若手医師の増員



30代～40代の若手医師の増員を目指す目標では、2020年度25人に対して、2021年度は28人となりました。2022年度は、研修医としては過去最高となる、1年目研修医6名、後期研修医6名でスタートを切ることとなりました。

P8 チャレンジ4

地域まるごとの新型コロナウイルス感染症 対応をすすめる



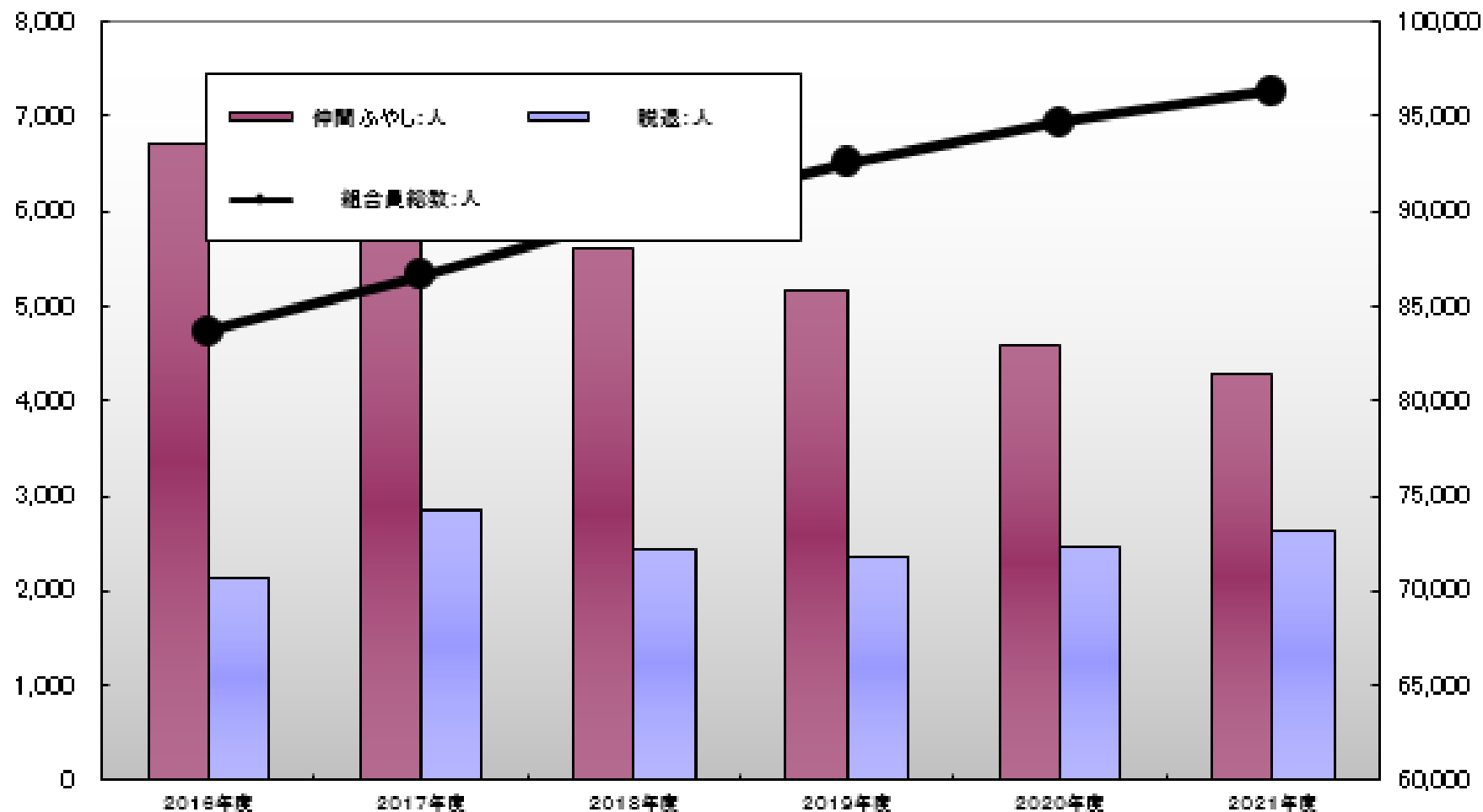
班や支部、「健康の友」を通じてコロナ関連の情報を伝えました。ワクチン予診票班会は78班で開催しました。

防災・減災の取り組み

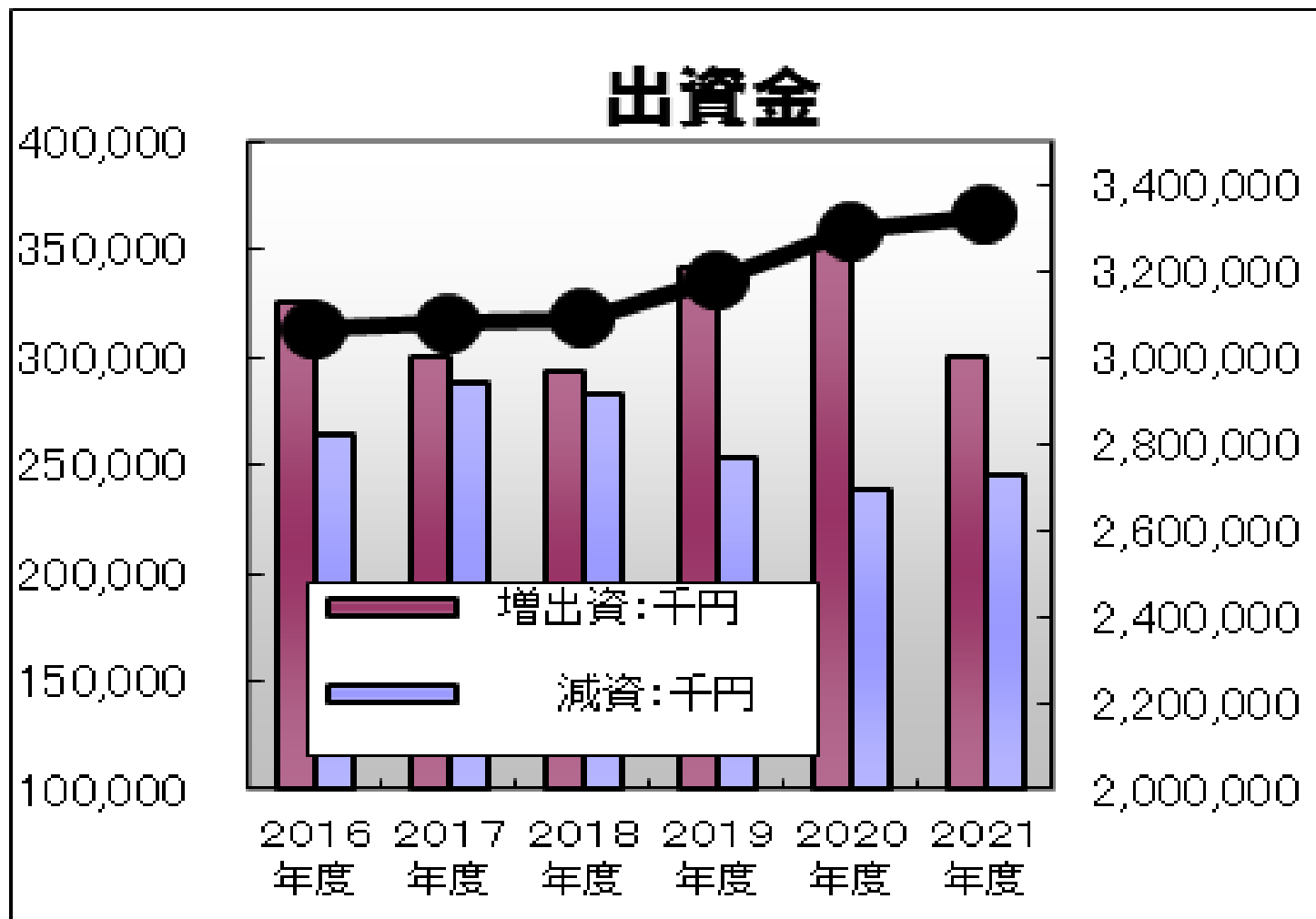


南医療生協も参加する「第6回名南地域防災シンポジウム」が開催されました。大学から専門の研究者をお呼びして、地域の団体、商店、企業と協力して119名の方が参加しました。こうした学習会を重ねる中で、恒常的な防災とまちづくりの推進団体を立ち上げることになりました。

地域だんらん8指標 仲間ふやし



仲間ふやしは、4,274人で目標の10,000人に大きく届きませんでした。組合員総数は3月末で96,306人です。



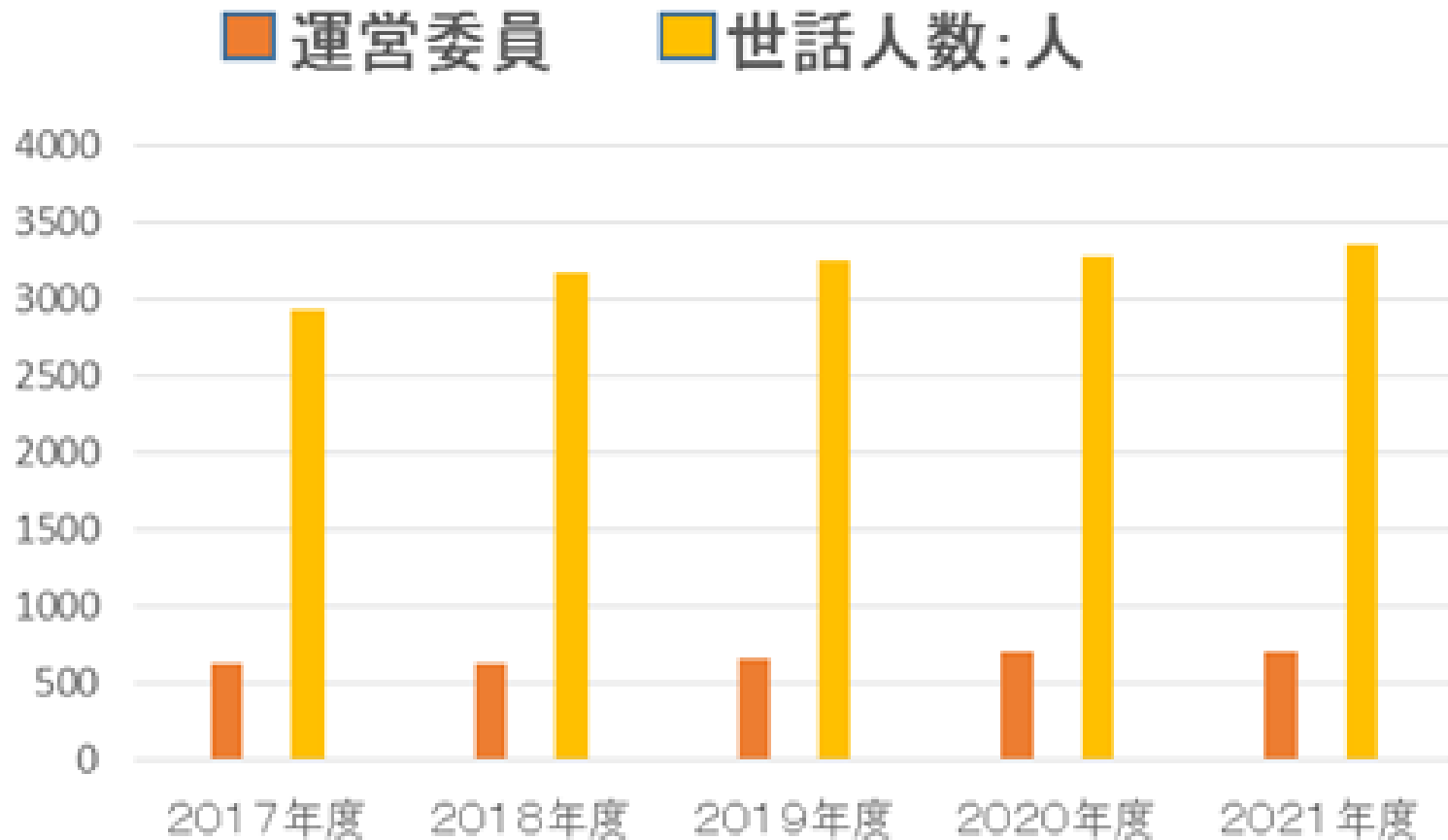
出資金は3億562万円。地域だけでも1億272万円を集め、純増は3869万円となりましたが、出資目標5億円、純増目標8000万には届きませんでした。

P9 地域だんらん8指標 班づくり・班会開催



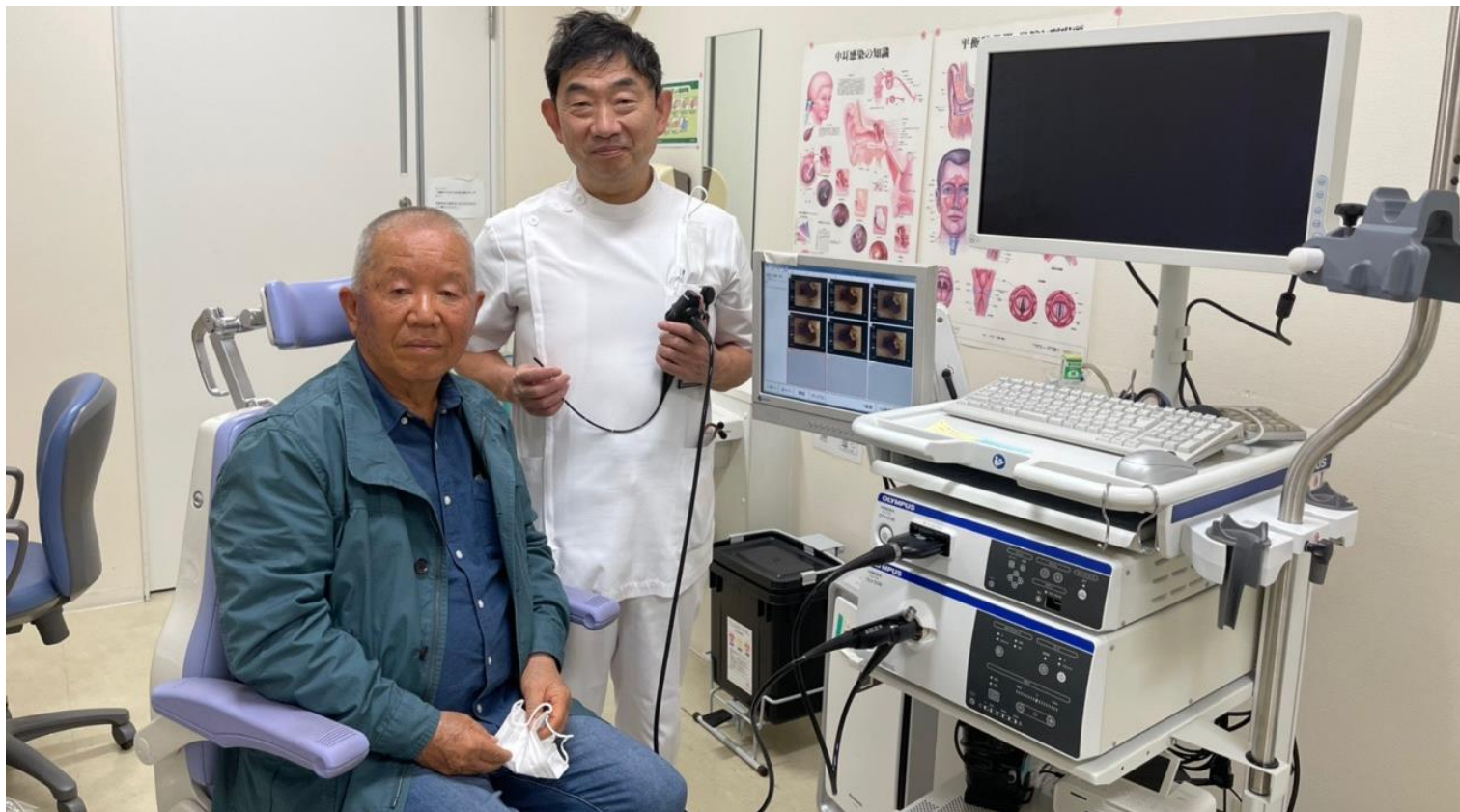
活動班が1,293班、班会開催は10,504回、新班結成が256となり、コロナ禍で苦戦を強いられた2020年度より、開催方法を工夫したこともありいずれの数字も上回りましたが、活動班、開催数はコロナ前の水準まで回復していません。コロナ禍の今こそ、南医療生協の班の強みが活かされるのではないのでしょうか。ワクチンの困りごと解決や、フレイル予防につながる地域の班活動を活発にすることに、組合員、職員が協同して取り組んでいきましょう。

P9 地域だんらん8指標 担い手ふやし



支部運営委員は、昨年度より9人減って701人、「健康の友」配布者は昨年より96人増えて3,451人となりました。おたがいさまのまちづくりをさらに進めていくためにも、支部運営委員増やしは喫緊の課題となっています。

事業所利用



南医療生協の事業所を利用する方に組合員になっていただき、組合員利用率 90%以上をめざしましたが、医療事業所で 83.1%、介護・福祉事業所で 92.3%でした。

第1号議案

2022年度

事業と運動の方針提案

2022年度 スローガン

多世代・多文化

安心の拠点づくりでひろがる

地域だんらんまちづくり

～だれもが取り残されない地域社会をめざして、
やれることから始めよう～



2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対応をしながら、事業の継続発展と南医療生協らしいささえあいたすけあいの運動をすすめていきます。

また、フレイル（虚弱）予防を班、支部、南医療生協事業所で取り組みます。

2022年度4つの重点方針

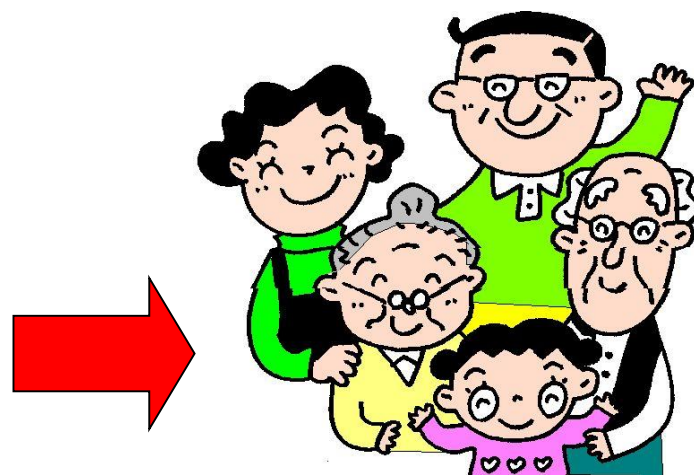
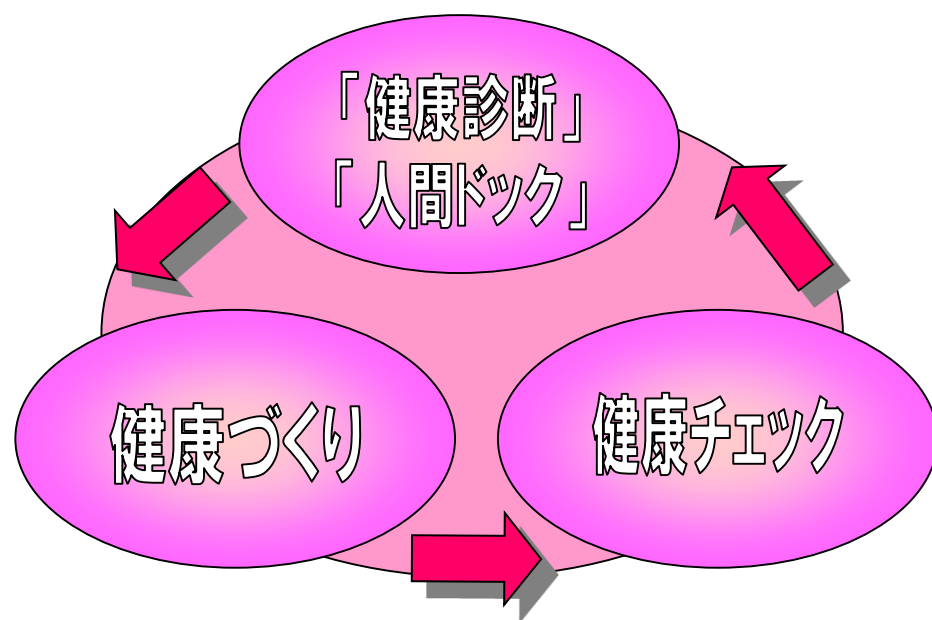
(4つのチャレンジ)

P11 チャレンジ1

**「組合員と職員の5つの協同行動」で
地域だんらんまちづくりをすすめます。**



①仲間（組合員）をふやして、ふやした仲間を「班」や「支部」につなげることで「くらしの安心」づくりを大きく広げます。コロナ禍ということもあり、この間支部要件を満たせず、支部活動の格差がひろがりました。103支部すべてで支部要件チェックを行い、支部要件を満たす取り組みを強化します。



ひとりひとりのその人らしい
しあわせな暮らしの実現！

②「健診・人間ドック」「健康チェック」「健康づくり」からなるケンケンサイクルを回し、健康で心すこやかに長生きしたいという地域の一人ひとりの要求にこたえます。新しくはじまる「ヘルスアップカレッジ」を通して南医療生協の健康づくり文化を広げ、地域の健康づくりリーダーの育成をすすめます。



③「断らない医療」「かかりやすい医療」「要望を受け止め、親身になる医療、親身につなぐ医療」をすすめ、質の高い介護・福祉・住宅サービスと合わせ、切れ目のない、一人ひとりの「暮らし」に根ざした医療・介護・生活支援の質の向上をすすめます。



④多世代・多文化がまざりあい、日常的にささえあう「おたがいさまの家」「おたがいさまサロン」づくりをひろげ、くらしのセーフティーネットとなるコミュニティづくりをすすめます。

チャレンジ2

健全経営と持続可能な事業経営をすすめます



①二次救急医療機関を担う医師や今後ますます地域社会から必要とされる在宅診療・地域医療を担う医師の人材確保を最優先課題としてすすめます。



②健診・人間ドックなどの健診事業を職員・組合員が一体となってすすめます。



③診療報酬改定に対応できる全職員参加の経営改善をはかり、事業の再生産を可能にする経常剰余5%以上を目指します。

- ④職員・組合員が「南医療生協のもつ社会資源」を知り活用し、
「南医療生協の考える総合的な地域医療」の品質を向上させます。



⑤看護小規模多機能ホームを2022年7月1日から現在の医療対応住宅型有料老人ホームおあいこの2階部分を活用してスタートします。この施設は看護師が日中常駐することで、医療依存度の高い利用者に適切な医療ケアの提供が可能になります。

⑥理事会機能の向上につとめます。

P13 チャレンジ3

「組合員10万人達成！」をめざします



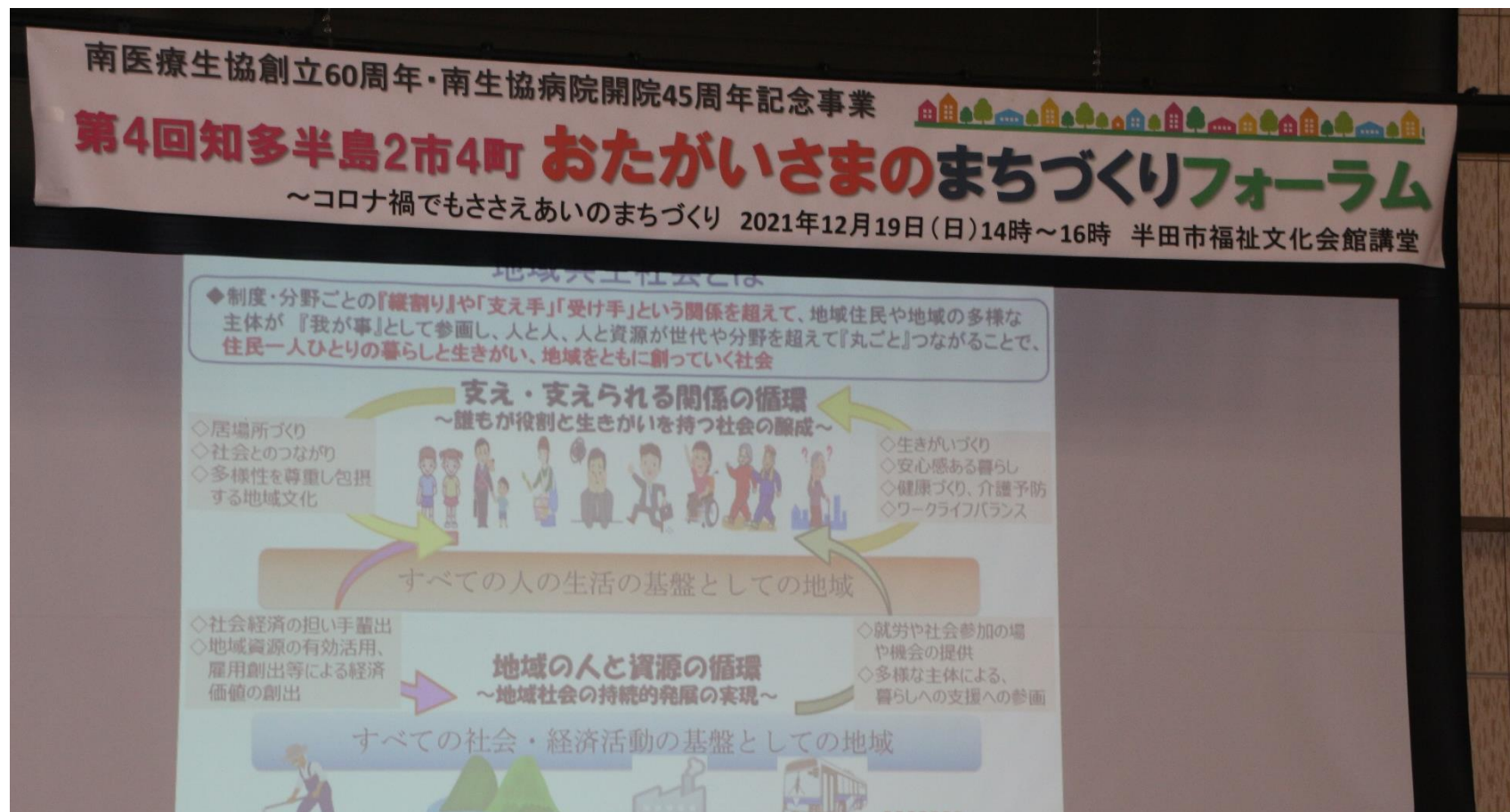
①「ひとりひとりのその人らしいしあわせなくらし」の実現のために、患者・利用者・利用者家族や身近な大切な人に参加の声かけをすすめていきます。



②60・45記念事業でつながった方との関係づくりを深め、まちづくりをともにすすめていく中で仲間をふやします。



③開かれた支部・班・おたがいさまの家づくりなどで、より多くの方に生活実感として「南医療生協に関わってよかった」と思える場面をつくり、仲間ふやしにつなげます。



④様々な団体、行政、自治体、大学、NPOなどでつながる中で、南医療生協の枠を超えて市民がつくり出す「新しい公共」
「セーフティーネット」「持続可能なコミュニティ」を創り出し、仲間ふやしをひろげます。

P13 **チャレンジ4**

組合員、職員、地域の人を対象にした生活学習活動をすすめます



①班や支部、ブロック、職場での生活学習活動をすすめます。



②協同組合の学校である「そのうち学校」の基本5コース「わくわく班づくり」「いきいきまちづくり」「事業所体験・探検」「おたがいさま運動」「協同の医療・介護」の参加をひろげ、学びの質を向上します。1支部3名以上の受講生目標で取り組み、協同組合の理解をひろめ、活動できる組合員をふやします



③好きなことからつながる協同・くらしの学校「第2の人生大学」の参加をひろげます。



④専門職と組合員、地域、大学、自治体と力をあわせ「地域でなおしさをえる医療」の実践をすすめ、実践交流会や研究発表会などを開催します。

はじまった「おたがいさまの家」づくり



おたがいさまのまちづくり
**積立出資金
通帳**

積立出資金通帳をご利用いただき、ありがとうございます
表紙の裏面の組合員名などの記入欄もお書きください
冊子の裏側などの説明書きにも目をお通しください

■住所 _____

■支部 _____

■組合員名 _____

さま

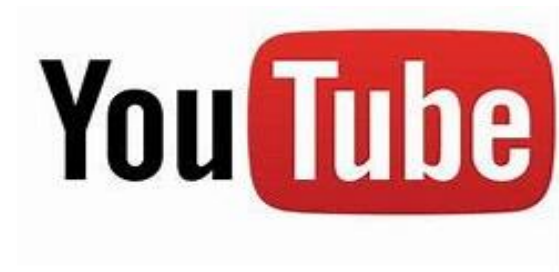
〒459-8016 名古屋市緑区南大高 2-204 南医療生活協同組合 総務課 052-625-0620

⑤積立増資の参加者をふやして、協同の力で南医療生協をささえる力をひろげます。



⑥くらしの様々な問題を当事者と一緒に学びあう生活学習・交流などの活動をすすめます。

P13 「みなみ・まちづくり放送局 (略称MMH)」の質を高めます



2022年10月完成予定の南医療生協ホームページに「みなみ・まちづくり放送局」ページをつくり、発信情報を一覧できるようにします。発信情報の内容は「事業所の紹介とかかり方」「ワクチン接種などの医療情報」「たのしくためになる健康づくり活動」「やってみたくなる班会の紹介」などをYouTube（ユーチューブ）動画にしていつでも閲覧できるようにします。

P13 **比較的安価な終の棲家である特別養護老人ホームの開設に向け、社会福祉法人の設立を目指します。**

特養は終の棲家として国や自治体の協力もあって、比較的安価に利用いただける施設であり、組合員やケアに携わる職員にとって、ぜひとも具体化したい願いの1つです。

特養を設置できるのは自治体と社会福祉法人だけですので、社会福祉法人の設立をめざして準備を進めていきます。

土地の確保や自治体の計画とマッチするといったハードルもあり、現時点で実現するかどうかは不明ですが、認可のめどが立てば開設推進委員会を立ち上げ、新しい事業をささえる職員の確保を「みな1000運動（みんなで1000人職員紹介運動）」を役職員・組合員ですすめていきます。

P14 **くらしに根づく平和運動、防災・減災、自然保護の取り組みをすすめます。**

- 1) SDG s を学び、具体化できることから実践します。
- 2) 「愛知県ユニセフ協会」の立ち上げに協力し、実現します。

※ユニセフは1946年設立。戦災国の児童の救済、福祉・健康改善などを目的としている国連の機関です。

P14 そのほか 事業と運動の方針

地域だんらん8指標をすすめていきます

8指標にこだわることは、南医療生協のセーフティネットをつくり、ひろげることです。

地域でも事業所でも、ご家族まるごとの組合員加入をおおいにすすめていきましょう。

そしてふやした仲間を、南医療生協のネットワークにつなげていただくこと、特にくらしの要求を実現する基礎単位である「班」とつながることが、くらしの安心の第一歩です。

P14 そのほか 事業と運動の方針



よってって在宅診療所 移転竣工式

事業における品質目標として「利用者の組合員利用率90%以上」を達成目標とする課題をすすめます。

2022年度 スローガン

多世代・多文化

安心の拠点づくりでひろがる

地域だんらんまちづくり

～だれもが取り残されない地域社会をめざして、
やれることから始めよう～